

好きだから、こだわりたい

ヴァイリスが創り出した「地球外生命体」が、ついに日本上陸。
東京モーターサイクルショーではモトコルセブースに展示され話題を呼んだ。
PHOTO/HORIHARA TEXT/Y.FUJITA
問/ヘルニア TEL046-220-1611 <https://www.motocorse.jp/>

ヴァイリスが開発してきた数々のマシンに共通しているのは、ハイパフォーマンスなエンジンをオメガフレームに搭載し、ハブセンターステアリング機構を持つマシンであることだ。ヴァイリスのアイデンティティともいえるデザインは、その根幹だが、それゆえに車体設計にさまざまな制限があることも事実だ。

しかしこのたび日本に上陸したエイリアンの姿を見れば、ヴァイリスのデザイナーにとって、その制限は想像力と創造力をさらに飛躍させるためのステップに過ぎないことがわかる。いわば、より高く跳ぶためにはヒザを強く屈曲させるようなものなのだろう。

エイリアンを真横から見ると、フェアリングが描くラインが見事にフロントスイングアームと協調している。ハブセンターステアアならではの美しさを巧みに生かし、マッシブながらも疾走感にあふれる造形に圧倒される。

その名のとおり地球外生命体、あるいは異質を思わせる車体の造

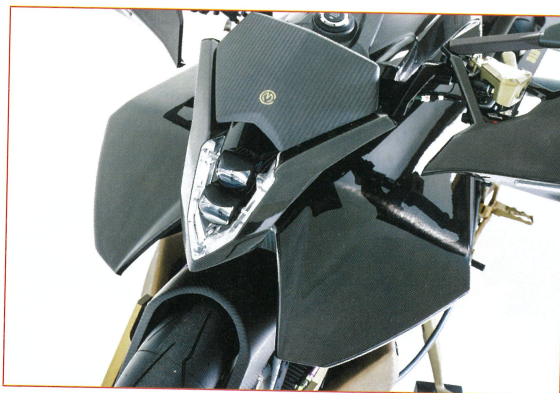
形は、ヴァイリス代表であるアスカニオ・ロドリゴが思い描いたイメージを具現化したものだ。それを現実の物としたのは、『イガラシデザイナー』として未来のモビリティを創造している日本人デザイナー、イガラシユタカだ。ロドリゴとイガラシは10年にわたって数十ものデザイン案を練り上げ、エイリアンを生み出した。彼はこのほかに986M2のデザインにも携わっている。

エイリアンの特徴は、モーターサイクル百年余の歴史で類を見ない独创性に満ちた造形にある。見る者を威圧し、寄せつけない。ある種の排他性すら感じさせる。

しかし、エイリアンの車体造形の秀逸さは、人間が跨がったときの調和にある。車体がこれだけ強い主張を持つデザインであるのに、ライダーが乗車して初めてデザインが完成するようになっていくのだ。大きく張り出したサイドフェアリングやハンドガード、前方に突き出したアッパーフェアリングは、ライダーを歓迎することが本来の意図なのではないかと思えるほどだ。

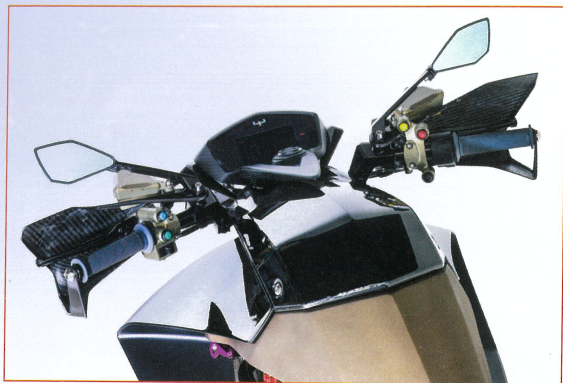
この造形を実現すべく、フェアリングにはユニディレクショナルカーボン、オメガフレームやスイングアームにはマグネシウムを採用することで、優れた剛性と軽さを両立させ、異質の姿を創り出した。

生産は世界限定20台。価格は2288万円。日本には4台が輸入されるがすでに完売という。エイリアンはハイバイクという新境地を開拓する挑戦者でもある。

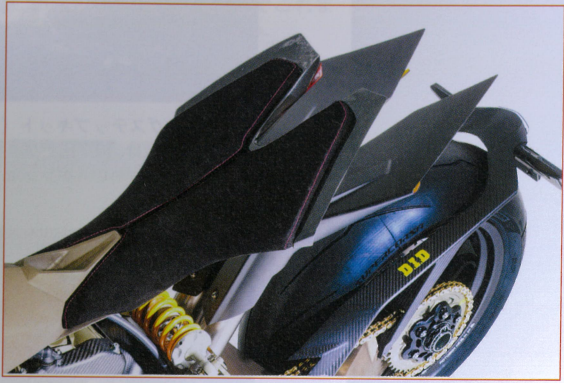


Vyrus 988 Alyen

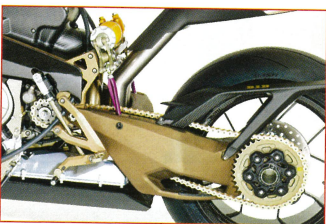
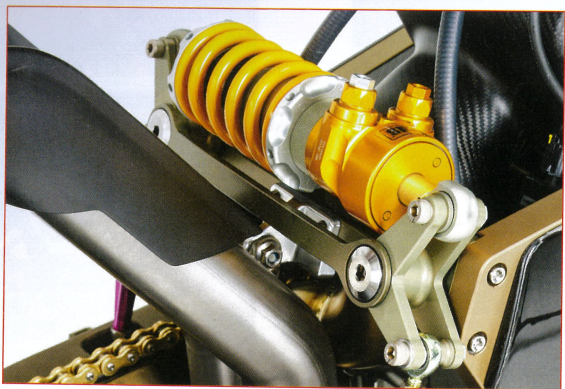
剛性と軽さをさらに向上させるべく、車体から大きく張り出すフェアリングは、カーボン繊維を織り込まず単一方向に揃えた素材を積層させたユニディレクショナル (UD) カーボンを採用している



ステアリングの操舵には、新たな手法を探るべくエイリアンでは油圧式が検討された。しかしフェイルセーフを優先した結果、ワイヤー式となった。サイドフェアリング内にアルミ製燃料タンクが内蔵される



マグネシウム製シートフレームで支えられるシート。その下に伸びているのはマフラーエンドで、内側に貼られた金色の材料は断熱材。消音器などは車体下部にあり、上方へ伸びているのはエンド部のみだ



ショックは前後ともオーリンズ製TTX40で横向きに配置。プッシュロッドとリンクを介してスイングアームと繋がり、左右から押されて動作する。スイングアームはフロントが両持ち、リアは片持ちのマグネシウム製

未知との遭遇



SPECIFICATIONS

エンジン形式	DUCATI製水冷4ストロークL型2気筒	キャスト / トレール	17~25"/84~112mm
総排気量	1285cc	タイヤサイズ	F=120/70ZR17
ドアストローク	116×60.8mm		R=200/60ZR17
圧縮比	12.6:1	ホイールベース	1575mm
最高出力	205hp/10500rpm	シート高	800mm
最大トルク	14.7kg・m/8750rpm	車両重量	165kg (乾燥)
変速機	6速	燃料タンク容量	11ℓ
		価格	2288万円